

環境目標と実績

YKKグループでは、中期の環境経営方針・環境政策を4年ごとに策定しています。2013年度からの第4次中期環境経営方針(2013-2016)では、持続可能な社会づくりへの貢献に向け、「小エネ・省エネを追求したもののづくりの創造」をキーワードに、4つの重点テーマに取り組みました。特に、第4次中期では従来からの省エネへの取り組みに加え、高効率の生産体制や省エネ技術、設備開発などの技術力を活かした施策を遂行。「技術の総本山」として製造・開発拠点を置く黒部事業所では目標であるエネルギー原単位20%削減(2010年度比)を達成しました。

YKKグループ 第4次中期環境政策(2013年度～2016年度)活動総括

テーマ	アイテム	アクションプラン	実績
コーポレート・ガバナンス (Corporate Governance)	グローバルな環境マネジメント体制の強化	・グループ環境経営監査の継続・発展(環境経営の更なる追求) ・各極内での相互環境監査の継続・自立化(環境コンプライアンスの維持)	6極全域における環境経営相互監査体制の確立
グリーンイノベーション (Green Innovation)	次世代ものづくり(技術革新)	・低炭素・資源循環・自然共生型社会に貢献する商品群の弛み無い開発 ・社会的課題の解決に貢献する商品の開発	AP事業での環境配慮商品の積極的開発
環境価値の創造 (CSV: Creating Shared Value)	本業を通じた社会貢献(社会における存在価値)	・社会(顧客、NPO、地域社会など)との協働の推進・発展 ・双方向での環境情報公開の多種多様化推進・拡大(社会的課題の共有)	ふるさとの森活動を次世代環境教育へ発展
持続可能性 (Sustainability) 【低炭素、資源循環、自然共生】	小エネ・省エネ(CO <sub>2</sub> 削減対策)	・エネルギー使用改革(高効率化、平準化、創電など)の持続的挑戦 ・サプライチェーンを含めたCO <sub>2</sub> 排出量の段階的削減(スコープ3の導入・活用)	目標の2010年度比エネルギー原単位20%削減を達成(黒部事業所)
	生物多様性対応	・自然、特に水の保全(WET)の導入・拡大活用 ・生物多様性を考慮したサプライチェーンとの協働	WETの実施、水管理手法の確立、黒部川扇状地下水解析、調達先企業の評価、ふるさとの森SEGES初回最高位取得
	化学物質リスク対策	・世界各国の環境債務の明確化と対応におけるリスクの低減 ・製造ならびに製品の安全性の確保・維持向上	水銀、フロン対策ならびに化学物質取扱評価により安全性を確保
	資源循環対応	・廃棄物排出量の削減、再資源化率の向上 ・MFCを導入し、資源の循環利用、利用効率の更なる向上を図る	国内の製造拠点でのリサイクル率99%を達成

YKKグループ 第5次中期環境経営方針・政策(2017年度～2020年度)

**YKKグループ 第5次中期環境経営方針**  
 ～持続可能な社会づくりへの貢献～  
**技術に裏付けられた価値創造による低炭素社会の実現**

社会にプラスの貢献をしていく

- 環境配慮、安全・安心、健康に貢献する商品群の充実と拡販
- 環境貢献活動の推進
- 生態系保全の推進
- 積極的な環境情報の開示

社会への環境影響を最小化する(ゼロを目指す)

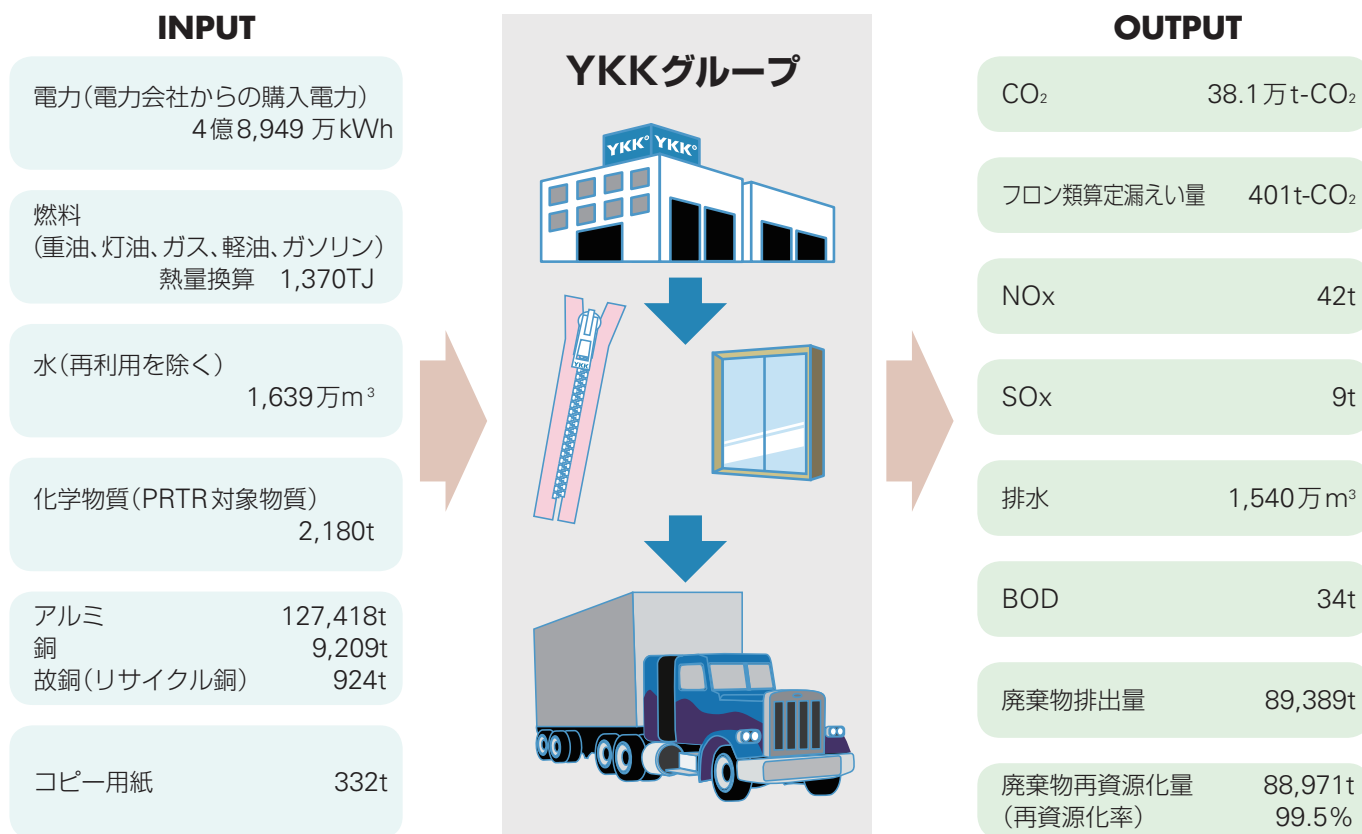
- 環境コンプライアンスの維持と向上
- CO<sub>2</sub>排出量の削減、気候変動リスクへの対応の推進
- 持続可能な調達、資源利用の削減・効率化、廃棄物の削減の推進
- 水リスクへの対応
- 化学物質削減の推進

第5次中期では、「社会にプラスの貢献をしていく」「社会への環境影響を最小化する(ゼロを目指す)」をテーマにし、環境政策や目標達成に向けたアクションプランを設定。事業活動に伴うCO<sub>2</sub>や水、廃棄物、化学物質などの環境負荷をできる限り最小化させるとともに、環境配慮、安全・安心、健康に貢献する商品群の充実・拡販など社会や生態系にプラスになる活動を加速させることで、持続可能な社会づくりへ貢献していきます。

2017年度環境政策と環境アクションプラン

	環境政策	2017年度 環境アクションプラン
社会にプラスの貢献をしていく	環境配慮、安全・安心、健康に貢献する商品群の充実と拡販	・窓の高付加価値化による価値提案と高断熱化の更なる推進 ・商品の有害物質対応、対応情報の発信 ・社外環境表彰制度への申請、受賞
	環境貢献活動の推進	・子供たちを対象とした環境活動の拡充
	生態系保全の推進	・NPO、NGO等と協働した生態系保全活動の実施
	積極的な環境情報の開示	・環境HPリニューアル素案作成 ・製造拠点でのステークホルダーとのコミュニケーションの実施
社会への環境影響を最小化する(ゼロを目指す)	環境コンプライアンスの維持と向上	・全社を対象にしたセルフチェックによる環境経営レベルの確認 ・環境経営監査での環境コンプライアンスの確認強化
	CO <sub>2</sub> 排出量の削減 気候変動リスクへの適応の推進	・F : (日本)エネルギー原単位2016年度比1%削減、CO <sub>2</sub> 排出原単位2016年度比1%削減 (海外)エネルギー原単位2016年度比1%削減、CO <sub>2</sub> 排出原単位2016年度比1%削減 ・AP : (日本)エネルギー原単位2013年度比7%削減、CO <sub>2</sub> 排出量2013年度比14%削減 (海外)エネルギー原単位2013年度比7%削減、CO <sub>2</sub> 排出量2013年度比7%削減 ・グループ全工場での気候変動リスクの調査と特定
	持続可能な調達 資源利用の削減・効率化 廃棄物の削減の推進	・サプライチェーンを含めた化学物質管理レベルの向上 ・(海外)廃棄物の再資源化率向上にむけた現状把握 ・AP : (日本)廃棄物量出荷高原単位2013年度比11%削減 営業拠点の廃棄物の再資源化、有価物化の推進
	水リスクへの対応	・地域性による水リスクを特定し、対応策を実施 ・排水処理設備 技術指導、定期設備診断の実施 ・AP : 売上高当たり水使用量2013年度比16%削減
	化学物質削減の推進	・F : PRTR対象物質排出量2013年度比3%削減 ・AP : PRTR対象物質排出量2013年度比22%削減

YKKグループ国内工場・オフィスの環境負荷マスマバランス (2016年度)



## 環境マネジメントシステム

YKKグループでは、環境方針を実現するため、国際規格ISO14001に沿った環境マネジメントシステム(EMS)を各事業ごとに構築し、継続的な環境活動を推進しています。

## 環境会計

## ◆2016年度 環境保全コスト実績 (範囲:国内YKKグループ)

単位:百万円/年

項目	主な取り組みの内容	設備投資	経費	
事業エリア内コスト	公害防止	排水処理場の運転及び設備更新、維持管理、微量PCB処理費	255	1,075
	地球環境保全	省エネ改善、空調、コンプレッサー設備、高効率ボイラー更新	816	241
	資源循環	リサイクル推進と産業廃棄物等の管理	174	645
事業エリア内コスト計		1,244	1,961	
上・下流コスト	リターン廃サッシ解体、故銅等	0	636	
管理活動コスト	ISO維持管理、環境展示会、環境社会報告書、環境関連分析、緑化、生物多様性対応	0	500	
研究開発コスト	エコプロダクツの開発	13	2,942	
社会活動コスト	地域社会との共同ボランティア活動、環境取り組み動画	3	52	
環境損傷対応コスト		0	0	
その他のコスト	消防設備の点検と管理	1	15	
合計		1,261	6,107	
		2015年度	1,686	5,101
		2014年度	1,221	5,479
		2013年度	809	4,975
		2012年度	650	5,191

	環境設備投資			環境経費		売上高 (億円)	総設備投資 (億円)
	金額(億円)	売上高比(%)	設備投資比(%)	金額(億円)	売上高比(%)		
2016年度	12.6	0.3	4.2	61.1	1.6	3,904	298
2015年度	16.9	0.4	4.5	51.0	1.3	3,883	377
2014年度	12.2	0.3	4.1	54.8	1.4	3,844	295
2013年度	8.1	0.2	3.3	49.6	1.3	3,904	245
2012年度	6.5	0.2	3.0	51.9	1.5	3,465	220

### グローバルな環境マネジメント体制の強化

YKKグループでは、環境経営の質の向上を目指し、環境コンプライアンス・ガバナンスを確認することでグローバルな環境マネジメント体制の強化を図っています。

#### ● YKKグループ環境経営監査（国内・海外）

環境政策委員会のもと、グループ環境経営方針・政策の確実な執行、ならびに環境コンプライアンスを維持・向上するための環境経営システムの実施状況を検証し、不足点を改善しています。

また、各極の統括責任者のもと、各地域の環境関連法令や文化の違いを踏まえ、極内の各拠点がお互いに遵法性、環境活動を検証し、環境コンプライアンスの維持・向上、環境リスクの低減を図っています。

### 生物多様性の保全

YKKグループでは、事業による生態系の影響を継続的に調査し、その低減に努めるとともに、地域の生態系に配慮した生物多様性に取り組んでいます。

#### ● IPMに基づいた緑地管理

緑地管理に用いる農薬は、周辺の生態系に少なからず影響を与えていると言われてしています。このことから、周辺環境への影響を低減するべく、拠点内の緑地管理をIPM(総合的病害虫管理: Integrated Pest Management)に基づいた緑地管理方法として「YKKグループ病害虫管理ガイドライン」を策定しています。今後は、国内外の拠点にてこの手法に基づく緑地管理を推進していきます。

#### ● WET試験への取り組み

国内の主要拠点から出される排水は水質汚濁防止法、各自治体で定める条例及び自治体との協定で定められた排水基準を順守し、排出しています。その一方で、排水基準に含まれない化学物質や化学物質同士の相互作用による環境への影響は、把握されていませんでした。そこで、河川への排水を対象にWET試験及び水生生物調査を行った結果、いずれの拠点においても生態系への影響がないことを確認しました。

### 資源循環

YKKグループでは、廃棄物を資源と考え再資源化し、世界の全拠点でゼロ・エミッション達成に取り組んでいます。2005年度には国内の生産拠点でゼロ・エミッションを達成しました。今後も廃棄物総排出量の削減や再資源化方法の質の向上を目指します。

#### ● 排出事業者の社会的責任

産業廃棄物の適正な管理・処理管理を目的に電子マニフェストを導入しており、国内主要拠点における2016年度の電子マニフェストの利用割合は、100%になります。また、毎年、計画的に廃棄物処理委託業者に対し、チェックリストを基に、契約書やマニフェストの管理、廃棄物の保管・処理状況、環境・危機管理対策や周辺地域との関係などの現地確認をしています。

#### ● 廃棄物の再資源化

YKKグループでは、循環型社会の構築に向けて廃棄物の再資源化に積極的に取り組んでいます。2016年度の廃棄物の再資源化率は、99%以上になります。

### 化学物質リスク管理

YKKグループでは、法律や協定などの順守はもちろん、化学物質の適正管理、土壌・地下水・大気・水域への地域環境保全および環境事故の未然防止活動など環境リスクの低減に努めています。

また、フロン類、アスベスト、土壌汚染およびPCBを環境債務として取り扱い、適正管理と処理を行っています。

#### ● 海外環境債務

YKKグループでは海外拠点における環境債務を把握するとともに、健康被害につながる可能性がないことを確認しています。今後も、各拠点において適正な保管・処理を行いつつ、各国の状況を考慮しながら処理を推進していきます。

#### ● オゾン層破壊・地球温暖化に向けた取り組み

YKKグループでは、フロン類使用製品の一部のフロン類についての更新期限を定めたガイドラインを策定しています。フロン類にはオゾン層を破壊する性質があるものの他、大きな温室効果をもつものがあります。機器の計画的な更新を進めながら、YKKグループ全体でフロン類の排出低減に向けた取り組みをすすめていきます。